事後研記録

6月23日（金）5限	公開研	教科	1年 保健体育
授業者	協力者	指導助言者	司会・運営
木梨　祐司 教諭	大塚　道太　教授 （大分大学）	〆野　忠相　指導主事 （大分市教育委員会）	羽田野 板井
学習内容（題材）	体の動きを高めるステーションドリルを作成しよう 体つくり運動		
本時のねらい	みんながともに楽しめるステーションドリルを作成することを通して、個人の違いに応じた運動の例を伝え合うことができる。		
協議の柱	問いの工夫は，学習者が問いを持ったり，問いを持続，深化していったりするために有効であったか。		

【生徒による発表】

ステーションドリルで運動を作る際に、どんな運動をすれば相手が楽しいかを考えて行った。 今後は１０人程度の運動でもどうすれば楽しくできるかを考えたい。 さまざまな運動をして、相手のためになるような運動を考えることが楽しかった。

【生徒への質問】

質問	回答
実践してみてどのようなことを思ったか	難しかった。 自分の苦手な動きを組み合わせることができた。
できる人、できない人への伝え方にはどのような違いがあったか	できる人には少し強度を上げた。できない人には簡単にするなど難易度を工夫した。
他のスポーツとの違いはあったか	今回を元にスポーツに共通した能力が体つくり運動にはある

【質疑応答】

質問	回答
新大分スタンダードで参考にした点はどのようなところがあるか	学習者が問いを持ち続けるように問いを設定した 楽しむことをキーワードにとらえ方を班で持たせる問いの設定をした
指導案作成は附属の視点で進めたか	県の指導案をもとに作成した。 単元を通した見通しを持てるように附属の特徴や他の教科に通じるように作成した。

【協議の柱：問いの工夫は，学習者が問いを持ったり，問いを持続，深化していったりするために有効であったか。】

意見
授業者から問いの伝え方を工夫して考えさせたかった。（反省） 楽しさを重視した。ただ楽しませるには伝え方が大切。伝え方をフィードバックし、楽しませるということを班で考えさえたかった。
設定する楽しさ、伝える楽しさの２種類があり、難しかった。
体ほぐしの運動で作成してもよかったのではないか
楽しさについての定義を設定する。

【指導助言：　〆野　忠相　指導主事（大分市教育委員会）】

３年次に実生活に生かす運動の計画を立てるというところを目標にしているがそこに向けて１年次、２年次にどのような内容を行うのかということ、そのなかで本時はどのような位置づけなのかということは示していただけると見に来た方々も参考としてもって帰っていけるのではないか。
生徒を体育館側面に並ばせることによって広がるとき集合するときに時間がかかりにくくなりさらに広がって活動する際に先生が全体を把握しやすい。
事後研で生徒が言っていたことを授業の中で生徒たちが言えるような授業展開ができないか。

【協力者：　大塚　道太　教授（大分大学）】

学校の体育の充実を図る。個人差にかかわらず楽しめるようにする。体つくり運動の楽しさは縦軸が達成・非達成、横軸が内的・外的の４つに分けられる。生徒が難しいところが楽しいと答えていたが、体育の授業に様々な楽しいが含まれているのでどの部分の楽しさなのかはっきりさせておくとよい。
本時は持続する能力を高める運動という設定だったが、次回は組み合わせ方、しかし今回は持続なのか組み合わせなのかそこの違いが見いだせなかった。